

LivaNova

Health innovation that matters

第43回

日本体外循環技術医学会大会
ランチョンセミナーのご案内

JaSECT

日時 2017年 **10**月**9**日（月）
12:10～13:00

会場 札幌コンベンションセンター
1階第1会場 特別会議場
〒003-0006 札幌市白石区東札幌6条1-1-1

PROGRAM

演者

門崎 衛先生
自治医科大学附属病院 麻酔科 准教授

座長

片山 勝之先生
医療法人 溪仁会 手稲溪仁会病院 副院長

演題

心臓手術における入院期間短縮を
目的とした体外循環管理

* ランチョンセミナーはチケット制となります

お問い合わせ：リヴァノヴァ株式会社 豊山
TEL: 03-3595-7630
E-Mail: yuri.toyoyama@livanova.com

共催：第43回日本体外循環技術医学会大会/
リヴァノヴァ株式会社

門崎 衛先生

自治医科大学付属病院 麻酔科 准教授

●経歴

平成2(1990)年	秋田大学医学部卒業、同大学麻酔科医員
平成8(1996)年	長野こども病院麻酔科医員
平成9(1997)年	秋田大学医学部附属病院麻酔科助手
平成10(1998)年	岩手医科大学附属循環器医療センター麻酔科助手
平成14(2002)年	岩手医科大学医学部麻酔科講師
平成19(2007)年	岩手医科大学医学部麻酔科准教授
平成20(2008)年	岩手医科大学医学部附属病院循環器医療センター 麻酔科診療部長
平成23(2011)年	自治医科大学とちぎ子ども医療センター 小児手術集中治療部学内准教授

心臓手術における入院期間短縮を目的とした体外循環管理

●要約

心臓手術における体外循環は麻酔と深く関連し、覚醒を含めた術後状態に大きく影響する。入院期間の短縮には臨床工学技士と麻酔科医の連帯が極めて重要である。なぜなら、臓器障害を予防する体外循環管理により、初めて、手術室抜管が可能となるからである。そして、早期覚醒は早期離床を可能にし、入院期間短縮を可能とする。

今般イタリアの麻酔科医であるラヌーチ教授らが提唱した酸素供給量(DO_2)を指標とした体外循環の送血流量調節は、我々の施設で行っていた脳局所酸素飽和度(rsO_2)を指標とする流量調節と概念上は同一であると考えられる。しかし、この方法では体外循環後の高乳酸血症を十分に予防できなかつた。そこで、同教授らのもうひとつの概念である二酸化炭素排出量(VCO_2)評価を体外循環管理に取り入れることにより高乳酸血症の改善を得た。

過去5年で300例の手術室抜管を経験しており、我々の施設における麻酔と体外循環管理について紹介する。

